

2022年度事業報告

2022年度は新型コロナウイルス感染症が確認されてから3年目を迎え、有効な治療法や薬が承認され、国内においては高齢者や重症化リスクの高い方、そして医療従事者や高齢者施設等のワクチン接種がこれまでと同様に進められ、かかりにくさや発症時の重症化を防ぐ一定の効果がありつつも、感染者数は増減を繰り返し、病院や高齢者施設等でのクラスター感染は相変わらず頻発し、関係者はその都度対応に追われ疲弊した。2023年5月からは5類感染症となることが決定されたが、これまでに例のないウイルス感染症であることから、まだ暫く動向を見ながらの対応となっている。このような中、世界的スポーツイベントであるサッカーの世界カップ2022、野球の2023WBCが開催され、ともに日本代表が大活躍し、これまでの新型コロナウイルス感染症で暗く沈んでいた国内の雰囲気、熱気と感動により、少し明るく元気になったように感じた一年であった。

私たちの医療現場では患者の面会に関して重症者や終末期の段階であれば少人数の家族が直接面会できるようになってきたり、高齢者施設等においては頻度は少ないが定期的に直接面会できる所も少しずつ出てくるようになってきた。とはいえ、感染対策上、やはりオンラインを活用した面会が主流であった。私たち医療ソーシャルワーカーは患者やクライアントの情報を家族や関係者に伝えるために、動画やオンラインを活用することにも慣れ、直接参加とオンライン参加のハイブリッド形式でのカンファレンスの開催もできるようになってきた。

このような情勢の中で当協会は様々な事業の活動を行ってきた。全体的にはオンラインによる活動が主流ではあったが、一部、直接参集しての活動も出来るようになってきた。東京都からの受託事業に関しては、地域巡回医療福祉相談会は開催が難しいブロックもあったが、感染対策を講じて何とか開催することができた。新人研修やグループスーパービジョンは感染対策の観点から基本的にオンラインでの開催となった。ブロック活動においてもオンラインを活用して活動することができるようになってきたものの、多彩な活動をするにはまだ暫く時間がかかりそうである。また、昨年度と同様に社会問題対策部の都民向け公開講座はオンラインで開催され、多くの方に参加してもらうことが出来た。各小委員会も基本的にオンラインで活動し、理事会もZoomを使用しオンラインでの出席と直接出席とのハイブリッドで開催することが出来た。会員同士が直接会うことがなかなか難しい情勢が続いていることから、理事会活動や他の活動がもっと会員に見えるようにしたいという想いから、昨年度途中から立ち上げたICT委員会でホームページのリニューアルを検討し、2023年度リニューアルオープンを目指した。

そして、来る2023年6月17日、18日に有明のTFTHホールにて公益社団法人日本医療ソーシャルワーカー協会と当協会との共催で全国大会の東京大会が開催されるため、実行委員会を立ち上げ、関係者と密に準備を進めてきた。

その他、事業計画に基づき、以下の事業を実施した。

1. 一般社団法人として求められている要件整備に努めた。
2. 事業に関する会員の理解を深め、会員が主体的にかかわり、積極的に参加できるよう努めた。
3. 医療福祉関係の他団体との連携を深め、公益事業と社会活動を推進した。

4. 東京都及び都議会各派へ、医療福祉の向上のため要望書を提出した。
5. 協会活動の情報提供や会員の意見交流の場として、出版活動及びホームページの充実に努めた。
6. オンラインでの講座・研修会を開催し、会員の専門性の向上に努めた。
7. 医療福祉相談事業の充実に努めた。
8. 医療福祉問題研究委員会活動の充実に努めた。

I. 管理運営報告

1. 公益法人の要件整備に努めた。
 - (1) 公益法人の最高意思決定機関である社員総会への出席会員の増員に努めた。
 - (2) 協会事務所の事務局体制を週4日稼働し、会計処理をはじめとした各部理事体制における事務処理の流れを事務局にて処理した。
 - (3) 公益法人の原資である会費については、各ブロックの世話人と理事の協力で未納会員の納入促進を図り、財源確保に努めた。
2. 公益性の高い公益（自主）事業の継続に努めた。
 - (1) 都民に対しての公開講座を新型コロナウイルスの影響によりオンラインで開催した。
 - (2) 江戸川区医療福祉相談会を開催した。
 - (3) 西東京市医療福祉相談会を開催した。
 - (4) 葛飾区医療福祉相談会を開催した。
 - (5) 江戸川区神経難病検診を東京都委託事業（地域巡回医療福祉相談会）として実施した。
 - (6) 豊島区医療福祉相談会を東京都委託事業（地域巡回医療福祉相談会）として実施した。
 - (7) 医療関連12団体で構成する医療従事者ネットワーク連絡会を中心とした看護フェスタに、オンラインにて参加した。
3. 医療福祉向上のため都知事及び都議会各政党・会派に対し要望書を提出した。
4. 他団体との連携を図り社会活動の推進に努めた。
5. ブロック代表世話人会と地域巡回医療福祉相談活動企画運営委員会を定期開催し、各ブロックの活動を支援するとともに協会活動の活性化に努めた。
6. 広報活動
 - (1) ホームページを活用し、広く協会活動の広報に役立てた。会員名簿の掲載を行った。
 - (2) 会員向けに「東京MSW」ニュースを発行し、内容の濃い企画、編集を行い情報提供に努めた。
 - (3) ホームページのリニューアルに向け、ICTの活用を努めた。
7. 次の事業について東京都から受託契約し、事業が円滑に遂行されるように努めた。

- (1) 地域巡回医療福祉相談事業
- (2) 電話相談事業（医療と暮らしのほっとライン）
- (3) 医療社会事業従事者講習会、新人研修特別講座
- (4) グループスーパービジョン（3講座）

- 8. 求人求職について「ホームページ」に随時情報を掲載した。
- 9. 会員の入退会状況を速やかに把握するように努め、ブロック代表世話人会を通じブロックに情報を提供した。
- 10. 相談会活動時の会員及び来談者を対象とした傷害保険に加入し、不測の事態に備えた。
- 11. 理事会及びこれに準ずる活動時の参加者・出席者を対象とした傷害保険に加入し、不測の事態に備えた。
- 12. 未加入ソーシャルワーカーの入会を促進し、賛助会員要件を検討した。
- 13. 新型コロナウイルス支援の振返り会を実施した。
- 14. 診療報酬改定研修会を開催し会員の知識向上に努めた。
- 15. 会員の異動状況（2022年度）

	正会員	準会員	賛助会員	合計
入会者数	52	12	6	70
退会者数	70	12	0	82
現会員数	543	73	13	628

(異動者数含まず)

*2023年3月31日現在

表1. ブロック活動状況

第1ブロック		第2ブロック	
4/7 世話人会 (引継ぎ)		4/13 世話人会	
4/28 世話人会		6/10 世話人会	
8/17 世話人会		7/13 世話人会	
11/12 巡回相談会 講演会「おひとり様老後への備え～入院 すると直面する課題～」 講師：鎌村誠司氏		9/10 巡回相談会 日野市在宅支援講座内	
11/25 オンライン情報交換会 「コロナ禍における各院の対応について」 世話人会 (反省会)		10/12 世話人会	
		11/10 世話人会	
		3/3 勉強会 「障害年金について」 講師：中村美恵子 先生	
世話人・ 運営委員	◎山口圭太 (新山手病院) ○関田亜紀子 (東大和療育センター) ▲内田美沙子 (田無病院) 大川貴子 (東京小児療育病院) 宮崎涼子 (小平中央リハビリテーショ ン病院) 目黒紗依 (竹丘病院)	◎山本 君枝 (相武病院) ○山本 君枝 (相武病院) ▲石川裕加里 (康明会病院) 大栗 里沙 (立川相互病院) 晝場 朱莉 (立川相互病院) 池田 千夏 (八王子山王病院)	

(ブロック世話人名簿 ◎印は代表世話人、▲印は相談事業運営委員、○は会計)

*巡回相談会＝地域巡回医療福祉相談会 (東京都委託事業)

表2. ブロック活動状況

第3ブロック		第4ブロック
4/27	新旧引継世話人会	4/19 世話人会（新旧世話人引き継ぎ）
6/2	世話人会	6月中旬 ブロック通信発行
7/15	世話人会、巡回相談実行委員会	9/13 世話人会
9/15	世話人会	12/7 研修講師との打ち合わせ
9/30	ブロック研修 「移民を取り巻く社会課題と実際の利用 できる制度」	
12/13	世話人会	1/10 世話人会
2/21	世話人会	1月中旬 ブロック通信（研修案内） 発行
2/26	地域巡回相談会 「第34回ふくし健康まつり+」	1/30 研修に向けての打ち合わせ
3/7	世話人会	2/3 勉強会「在宅生活を支える多職種 チームアプローチ実践について」 講師：在宅総合ケアセンター元浅草 （たいとう診療所） 斉木三鈴氏、塩見達也氏 3月中旬 ブロック通信発行
世話人・ 運営委員	◎榎本浩典（板橋区医師会在宅医療 センター療養相談室） ▲権正亜子（関野病院） 河西亜子（東京健生病院） 西村菜月（順天堂大学医学部附属 練馬病院） ▲岩崎藍子（東京都健康長寿医療 センター） ○志田宏美（介護老人保健施設 練馬 ゆめの木） 大橋なつみ（明理会中央総合病院） 露木茜（東京都立豊島病院）	◎成島有希（浅草寺病院） ○細淵由真（日本大学病院） 伊海陽介（東京医科大学病院） 五位野美穂（東京医科歯科大学病院） ▲小川千尋（三井記念病院） ▲ビンガム祥子（虎の門病院） ▲駒村穂乃香（東京慈恵会医科大学付属 病院） ▲田畑小百合（東京女子医科大学病院）

（ブロック世話人名簿 ◎印は代表世話人、▲印は相談事業運営委員、○は会計）

*巡回相談会＝地域巡回医療福祉相談会（東京都委託事業）

表3. ブロック活動状況

第5ブロック		第6ブロック	
4/26	世話人会	4/21	世話人会
6/1	研修会 「障害年金について」	6/15	世話人会
8/1	世話人会	8/10	世話人会
9/28	研修会 「患者さんの様々なお困りごと」	9/15	世話人会
10/2	巡回相談会「江戸川区神経難病健診」 江戸川区医師会館	10/7 交流会「第6ブロック秋の情報交換会」 10/31 世話人会	
11/3	巡回相談会（江東区） 「南砂町イーオン」イベントスペース		
12/19	世話人会	12/15	世話人会
2/22	オンライン見学会 「看護小規模多機能型居宅介護 かえりえ竹ノ塚」	3/20	世話人会
世話人・運営委員	◎上田美佐江（がん研有明病院） ○加藤大介（東京東病院） 須藤順子（京葉病院） 加藤郁子（水野記念病院） 佐藤智美（清澄ケアクリニック） 中川千香子（がん研有明病院） 倉知志帆（苑田第三病院）	◎小泉真奈（河北リハビリテーション病院） ○樋口昌彦（至誠会第二病院） ▲加藤淳（牧田リハビリテーション病院） ▲三上謙子（松井病院） 當麻輝彬（内藤病院） 川路裕子（三宿病院） 河野杏子（三宿病院）	

(ブロック世話人名簿 ◎印は代表世話人、▲印は相談事業運営委員、○は会計)

*巡回相談会＝地域巡回医療福祉相談会（東京都委託事業）

表4. ブロック活動状況

第7ブロック	
4/28	世話人会
5/18	世話人会（オンライン）
6/15	世話人会（オンライン）
7/20	世話人会（オンライン）
7/27	ブロック交流会（オンライン） オンライン名刺交換会
10/5	世話人会（オンライン）
12/4	巡回相談会（調布市） 調布市福祉まつり参加
1/18	世話人会（オンライン）
3/17	勉強会（オンライン） 「医師の立場から見た入院から在宅までの 実際」 講師：杏林大学病院 神経内科 中島昌典先生
世話人・ 運営委員	◎室井健太郎（366 リハビリテーション病 院） ○奥野朋子（国分寺病院） ▲大川真央（武蔵野赤十字病院） 小杉麻耶（多摩丘陵病院） 井上敬介（分梅クリニック） 畑中諒太（都立多摩総合医療センター）

（ブロック世話人名簿 ◎印は代表世話人、▲印は相談事業運営委員、○は会計）

*巡回相談会＝地域巡回医療福祉相談会（東京都委託事業）

II. 各事業報告

【定款第1号事業】

1) 医療ソーシャルワークの普及及び向上に寄与する事業

1. 地域巡回医療福祉相談【受託事業】

地域巡回医療福祉相談は、各ブロックの運営委員会を中心に実行委員会を組織し、多くの会員の協力のもとに年7回実施を実現できた。

日程		開催場所	相談件数	特別企画
1	9月10日(土)	日野市中央公民館	7	地域巡回医療福祉相談会
2	10月2日(日)	江戸川区医師会館	2	江戸川区神経難病検診
3	10月16日(日)	府中市立ふれあい会館 (第42回福祉まつり)	6	地域巡回医療福祉相談会
4	11月3日(木・祝)	トピレックプラザ 展示スペース	3	地域巡回医療福祉相談会
5	11月12日(土)	田無総合福祉センター	3	地域巡回医療福祉相談会
6	12月4日(日)	調布福祉まつり	4	地域巡回医療福祉相談会
7	2月26日(日)	豊島区健康展	10	地域巡回医療福祉相談会

2. 電話相談（医療と暮らしのほっとライン）【受託事業】

2021年4月より月4回、電話相談を実施した。件数については、下記表中に含まれる。

地域巡回医療福祉相談と電話相談の相談内容と件数

事 項	面接	電話	文書	計
病気から派生した本人家族の社会生活上の問題	15	21	0	36
病気又は治療の障害となっている心理的不安等精神的問題	12	24	0	36
病気又は問題の要因となっている患者の家族関係やその他の対人関係の調整	2	10	0	12
治療費や生活費等の経済的問題に対する各種制度の利用斡旋	2	6	0	8
医療施設や社会福祉施設の利用をめぐる問題	6	17	0	23
看護や療養・生活指導をめぐる問題	0	2	0	2
退院後の社会生活への復帰をめぐる問題	15	5	0	20
その他医療福祉に関する相談	1	10	0	11
合 計	53	95	0	148

3. 公開講座【自主事業】

「救急車に乗ったそのあとはどうなるの?～自宅から救急医療につながる実際の動きと普

段から準備できること～」をテーマとし、東京消防庁豊島消防署救急技術担当係長（消防指令救急救命士）小室俊基氏及び東京医科大学八王子医療センター 医療ソーシャルワーカー（認定社会福祉士 精神保健福祉士）品田雄市氏によるオンライン講演会を実施した。参加者は58名であり、事前及び当日の質問に回答いただき、アンケートでも高評価を得た。

4. 難病検診への参加協力

例年、難病無料医療相談会は東京都から委託を受け、東京都難病相談・支援センターが実施している。当協会では、難病無料医療相談会に毎回2～3名の医療ソーシャルワーカーの派遣に協力し、専門医と面接前の事前面談を担当しているが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けオンラインでの開催のため医療ソーシャルワーカーとしての参加はなかった。

5. 地域巡回医療福祉相談活動企画運営委員会【自主事業】

地域巡回医療福祉相談会運営委員と江戸川区、西東京市、葛飾区、豊島区の独自相談会実行委員が、相談会活動の企画や今後の運営等について情報共有及び協議する場として、社会問題対策部と総務部共催で委員会を開催した。

今年度も新型コロナウイルスの拡大防止のため、委員会をオンライン中心で行い、相談会開催に向けて検討を重ねた。例年行われていた福祉まつり等の中止の影響もあったが、対面での相談会を東京都委託事業地域巡回医療福祉相談会として7回開催することができた。

6. 江戸川区医療福祉相談会【自主事業】

2022年度は、江戸川区介護フェアが3回開催され、参加した。8月27日（土）アリオ葛西展示スペース、10月23日（土）東京福祉専門学校学園祭、11月19日（土）江戸川区グリーンパレスで相談コーナーを開設し、合計25件の相談があった。江戸川区医療福祉連絡会は新型コロナウイルスの影響で年度内の開催が中止となった。

7. 葛飾区医療福祉相談会【自主事業】

2023年3月4日（土）葛飾区パルフェスタにて、区の協力のもと地域巡回医療福祉相談会実施となった。コロナ禍で相談会中止が続き、2019年以来の相談会開催となった。区内MSW9名が参加し、地域住民へ医療ソーシャルワーカーの役割について説明したり、地域住民の医療福祉相談に対応した。

8. 西東京市医療福祉相談会【自主事業】

2023年2月18日（土）「介護と医療の地域連携を考える～身寄りのない方への支援～」と題して、地域包括支援センター職員、西東京市内の病院の医療ソーシャルワーカー、在宅療養支援窓口担当者、市役所高齢者支援課、社会福祉協議会の職員計32名が参加し、済生会神奈川県病院医療ソーシャルワーカー鎌村誠司氏より「みんなが困らない地域にしていくために」の講演後に、「現状の把握」、「あったらいいなと思うこと」の議題で意見交換会を開催した。

9. 豊島区医療福祉相談会【自主事業】

2019年度までは豊島区ふくし健康まつりにて、薬剤師会主催の健康展の中に相談ブー

スを設置し、独自相談会として開催したが、新型コロナウイルスの影響で2年間中止となった。今年度は2023年2月26日(日)、としま区民センターにて開催され、東京都委託事業巡回医療福祉相談会として実施した。

10. 江戸川区神経難病検診

江戸川区・区医師会主催、(社)東京進行性筋萎縮症協会後援の江戸川区神経難病検診について、当協会が参加協力の依頼を受けている。今年度は、2022年10月2日(日)江戸川区医師会館にて開催され、東京都委託事業地域巡回医療福祉相談会として医療ソーシャルワーカー2名を派遣し医療福祉相談に対応した。

11. 災害支援活動【自主事業】

(1) 支援活動の運営

東日本大震災以降、当協会内に「災害支援対策委員会」を発足させ、定期的に活動の打ち合わせを重ねてきた。

委員会の構成メンバーは、三役、各部理事、活動に賛同する一般会員である。協会内に委員会を設置することにより、2011年以来、継続的な活動を図ることが可能となっている。

(2) 被災者への支援

東京都への直接要望を実施し、「災害支援研修の拡大」、「広域避難者の健康、人権に対する支援の継続、強化」、「広域避難者への相談・心理支援・情報提供の体制を整備・充実」について要望を提出した。

(3) 防災・減災、災害時対策

①災害関連情報ストック「みんなで学ぼう！災害制度」を協会内のホームページ内に設け、災害支援に関連する情報の蓄積に務めている。

②東京都社会福祉協議会主宰「災害福祉広域支援ネットワーク推進委員会」に参画。

東京都や各専門職団体と、災害時における福祉支援に関する協議を図っている。

③理事を中心に、災害訓練を実施し、災害時の対策を検討した。

(4) 会員や関係機関・団体への教育及び広報、協働活動

①災害支援ニュース「つたえる」をホームページに掲載した。

②災害ソーシャルワーク研修会「防災の新常識」を11月8日(火)にオンラインで開催した。

③災害支援規定・災害時行動ガイドラインの改定を行った。

【定款第2号事業】

2) 会員の専門知識・技術の向上に関する事業

1. 講座【自主事業】

2022年度も「ソーシャルワークの基本をふりかえる」をテーマに企画した。第1回は2021年度に開催予定でありながら、新型コロナウイルス感染拡大のため延期となったシンポジウムを2022年10月21日に開催した。法政大学の伊藤正子先生に司会進行を依

頼し、シンポジストに大沼扶美江氏（都立松沢病院）、松野勝民氏（横浜市菅田地域ケアプラザ）、小松 美智子氏（元武蔵野大学）をお招きし「ソーシャルワーカーの基本を振り返る～ソーシャルワーカーとして忘れてはいけないことは何か～」と題してオンラインで実施した。当日参加者は29名で、各シンポジストから実践のなかで考えてきたことや時代の流れのなかで変えてきていること、あるいは変えていないことはどのようなものかを発表頂いた後は受講生同士のグループワークの時間をとる構成とした。参加者からは「色々な方の話を聞くことができ、忘れていた大切なことを思い出せた」「業務をこなす日々を追われて、医療ソーシャルワーカーの基本を蔑ろにしていたことを振り返った。今一度、医療ソーシャルワーカーである自分を見つめ直すきっかけとなった」「初心を思い出すことができたこと、悩んでも迷っても良いこと、他の方も同じ悩みがあること、これらが分かり、頑張っていこうと、前向きに考えることができた」などの意見が聞かれ、「ソーシャルワーカーとして忘れてはいけないこと」を参加者各自が考え、持ち帰ることができる講座になった。

第2回は法政大学の高良麻子先生に講師を依頼し、「ソーシャルワーカーの基本を振り返る～誰もがWell-Beingを実現できる社会に向けたソーシャルワーク～」と題してオンラインで実施した。当日参加者は16名で、社会変動の現状を踏まえた上でWell-Beingの実現のために専門職として何が出来るのか講義をいただいた後、受講生同士のグループワークの時間をとる構成とした。参加者からは「社会情勢を捉えた上でのソーシャルワーク実践が求められていること、私たちの役割がWell-Beingを高めることだと再認識した。ジレンマはソーシャルワーカーだから感じられるということが印象的であった。ジレンマを感じることに苦しさがあったが、それは様々なシステムへの介入する医療ソーシャルワーカーだからこそなんだとある意味ジレンマを感じられる貴重な職種ではないかと思った」「グループワークでは時間が足りない程活発な意見交換ができ、有意義な時間であった」「自分のケースや所属組織だけでなく、地域に目を向けていく事の重要性を感じた。ソーシャルワーカーの視座を確認できた」等の感想が寄せられた。

コロナ禍のためオンライン開催となったが、オンライン開催の長所も踏まえつつ、今後も専門性の意識化や知見を深められる講座を提供できるよう企画・運営に取り組んでいきたい。

2. 研修会 ※講師 敬称略

(1) 新人研修【自主事業＋一部受託事業】

2022年度も新型コロナウイルスの影響を鑑み、オンライン研修とし、7月から集中コースのみで開催した。

受講生は46名での開催となった。2022年度も引き続きオンラインのため接続のテストを行うなどの準備を要したが、大きなトラブルはなく終了した。また、2021年度同様、受講状況が確認できるようにするため、受講中は自身のカメラを必ず作動させ受講すること、受講後振り返りシートを提出することで出席を確定するなどの対策を行った。

- 【講師】 平田 和広 （東京都医療ソーシャルワーカー協会会長）
樋口 昌彦 （至誠会第二病院）
仲谷 恵美子（森山脳神経センター病院）
八木 亜紀子（アアライ株式会社）
山谷 佳子 （聖マリアンナ医科大学産婦人科学）

- 吉浦 輪 (東洋大学ライフデザイン学部生活支援学科)
藤平 輝明 (研修講師・地域活動ボランティア 元東京医科大学病院医療ソーシャルワーカー)
小松 美智子 (武蔵野大学客員教授・女性の暮らしやすさを考えるソーシャルワーク研究会)

(2) グループスーパービジョン【受託事業】

①Aグループ

【講師】渡部 律子 (日本女子大学名誉教授)

3年目以上のソーシャルワーカーを対象に、全10回(6月開講 毎月第2土曜日)の講座の開催となった。受講生は8名で新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、すべてオンライン形式で開催した。『新たな視点から実践を見つめなおす』をテーマに、初回はオリエンテーション、第2回はスーパービジョンについての講義と事前課題についてのグループワーク、第3～10回は参加者が事前提出した事例につき1回1事例の事例検討を行った。全回を通し、講師から参加者への問いや発言の促しがあり、双方向的な講座が展開された。事例検討では、各参加者が対应当時または事後となってから、支援者として心に残る“もやもや”について言語化した。事例のダイアログを、ロールプレイ形式で事例提出者や参加者が読み上げ、患者・家族の立場に立ってみて感じた事や気づきの共有がされた。事例提出者以外の参加者からは、事例についての質問・発言・意見などの共有がなされた。その上で講師より事例の理解を促す新たな視点の提示や質問がなされ、参加者間で意見を交わす事で事例についてさらなる理解を深めた。

参加した受講生からは、「事例を通じて、日頃の業務を振り返るきっかけになり、大変貴重な機会となった。また他の参加者からの考えを聞くことで、違った角度からの視点に気づきを得ることができた」「心理的安全性が担保されている環境・雰囲気グループスーパービジョンが展開され、ソーシャルワーカーとして次のステップを踏み出す後押しをしてもらえた」「様々な所属機関のソーシャルワーカーが参加しており、事例検討ではそれぞれの立場や経験から意見をいただき自分では気が付かなかった視点や考え方を学ぶことができました。また各機関のソーシャルワーカーの役割を事例を通して知ることができ今後の連携にも役立つと感じた」との意見が聞かれた。講師と参加者が安全な場で活発に発言する場が提供でき、実践をみつめなおす機会の提供ができたと考える。

②Bグループ

【講師】石井 三智子

経験年数5年目未満の受講生9名で、毎月第4火曜日を基本として開催した。新型コロナウイルスの影響を考え、初回のみ環境を整えた上で集合研修とし、2回目以降はオンライン形式にて行った。講座の進め方としては、初めに各月担当者が事例を提供し、翌月担当の受講生が司会をしながら、提出者からの事例説明や受講生からの意見や質疑応答を繰り返すことで事例を深めていき、提出者が検討したい事に対して振り返りや新たな気づきを得る形式となった。さらに、講師からの助言や参考文献等の資料も活用しながら内容をさらに深めていった。事例検討後には、後日、講師が事例提出者と個人スーパービジョンを実施した。

受講生からは「経験年数が同じ程度の医療ソーシャルワーカーの方々と、それぞれが困難に感じたケースについて事例を検討したことで、自分だけでは思いつかない視点で様々な事例に触れることができた。それによって、視野が広がったと感じている。また、他の受講生と自身を比較して、自身の立ち位置を再認識できたのもよかった」「第一回目に一度会えたため、二回目からのオンラインはやりやすかった。また、事例ではとても丁寧に指導して頂き、とてもためになったと感じている。急性期や慢性期、機能の違う病院のケースを知り、新しい資源を知る機会にもなった」との意見が出された。同じくらいの経験年数の受講生のグループであったため、「自分だけが悩んでいるわけではない」ということを共有しながら、新たな学びを得る機会となったと考える。

③Cグループ

【講師】佐藤 俊一（NPO法人スピリチュアルケア研究会ちば理事長／
日本ソーシャルワーク学会理事）

ソーシャルワーカー実務経験5年以上の参加希望者を対象に、2022年6月～2023年3月の10か月間、毎月1回・第4木曜日の夜、全10回の講座を実施した。新型コロナウイルス蔓延の影響下であったが、検温や体調管理、環境整備をした上で、初回のみ、会場での集合研修を実施した。2回目以降は昨年度に引き続き、感染症蔓延防止の観点から、オンラインでの実施とした。

全10回の講座を受講することで、各受講生が職場における対人支援の中で「実践力を生み出す」事が出来るようになる事を目指した講座である。初回はオリエンテーションとして、それぞれの所属機関、仕事内容などを共有し、理解を促した。対面で参加者同士がコミュニケーションを図る事で、その後のオンライン講座で率直な対話を行うために必要な、信頼関係の土台が出来た様に思われる。第2回～第4回は、受講生が指定テキストを事前課題として精読し、それを各自がどの様に解釈し実践支援と照らし合わせたかについて、対話形式で共有した。その中で、講師から受講生へ気づきを促す質問が投げかけられた。受講生はその問への答えを模索し、思いを言語化することで、クライアントの話を傾聴する事や対話的關係を構築することについての考えを広め、深める事が出来たようだ。

第5回～第9回の全5回は、各回担当の受講生をあらかじめ決めた上で、参加受講生全5名から提出された事例検討を行った。各月担当受講生は、まず講師へ事例を提出することで個人スーパービジョンを受け、自らの事例を俯瞰し、また気持ちを整理する機会となった。個人スーパービジョン後の視点も含めた事例を再度作成した物を全受講生および講師と共有した。一人の人として、また支援者としてクライアントとの対話的關係を築けたのか、事例提出者と参加者全員で問いを重ねた。最終回は、これまでの学びの総括として全5事例を振り返り、各受講生が支援者としての自己を客観視し、各自の強みと弱みを言語化することで実践への新たな目標を確認する機会となった。

受講生からは「自分と他人の性質は違うように見えて根本は同じ」「人に関わるという点では、同僚も家族も基本的に変わらない。テキストでも学んだ基礎工事の部分なのだ」「クライアントを理解する＝感性を磨くことが大切で不可欠だ。自分がどう考え感じたのか立ち止まって考えてみたい」等、心からの気づきを感じさせる感想が得られた。初回を対面で実施したことによって、オンラインでの率直な対話がしやすかったとの受講生からの感想もあった。

(3) スーパーバイザー養成講座【自主事業】

【講師】 福山 和女 (ルーテル学院大学名誉教授)

2022年度よりオンライン形式の利点を活かし、非会員を含む経験年数2年以上の受講生16名で全8回(毎月第3火曜日)実施した。毎回、受講生同士で業務行動プログラミングを用いた講座参加の目的・目標を共有し、そのテーマに則り講師からの問いかけに答えつつ、スーパービジョン体制を理論に基づき学んでいった。また、個別の事例にも焦点をあて、部門としての関りと多職種協働の重要性など、再認識する機会となった。

講座終了後のアンケートでは、「どう対応したらよいかに悩み、答えを求めがちであったが、自身で気づきを得て習得していくことの難しさと同時に学びと実践がつながりやすい気がした」「スーパービジョンを学んでも学んでも自信がなく実践に生かすことができずにいたが、研修を通してスーパービジョンの体系、バイザーとバイジーのそれぞれの課題・準備・時間の使い方などを学ぶことができ、実践してみることができた」「毎回気づきや得るものがあり、この1年で、自分の変化を実感するほどであった。参加してよかった」等の受講成果が窺えた。

また、非会員を含めたことにより全国に同じ悩みを持つソーシャルワーカーの交流の場にもなり、講師と受講生の双方向交流の中で専門技術や知識向上にも繋がったと考える。

(4) 連続講座【自主事業】

【講師】 佐原 まち子 (WITH 医療福祉実践研究所 代表理事)

- 第1回 2023年1月20日 「SWに欠かせない専門職としての要素・資質とは」
- 第2回 2023年2月10日 「SWのためのコミュニケーションスキル」
- 第3回 2023年2月24日 「SW面接における情報収集」
- 第4回 2023年3月10日 「SWアセスメントに自信を持つために」
- 第5回 2023年3月24日 「全体を俯瞰するSWアセスメントからの支援計画」

2022年度は「実践で生きる ソーシャルワークの専門性」と題して講座を開催した。ソーシャルワークの専門性を様々な角度から考えることで、「退院支援」という枠だけではない、ソーシャルワーカーの仕事全般に活用できることを目的に実施した。全5回、各回ごとにテーマを設けて、全てオンライン形式で行った。

受講生からは、「時代の流れと共に、医療ソーシャルワーカーの病院内での立ち位置や求められる役割が変化してきたことを改めて学びました。また、医療現場の中で福祉を行なうことを目的とした医療ソーシャルワーカーという専門職が確立されたのは、多くの医療ソーシャルワーカーの先輩方の揺るぎない思いや、それを基にした医療ソーシャルワーカーとしての実践により、存在を示し続けてきた経過があったからということに改めて実感しました」

「今回の研修で1番印象に残ったのは会話と対話の違いについてです。日々仕事をする中で伝えることの難しさ、クライアントとのズレを感じることがあります。文化的背景を知る、クライアントに教えてもらうことがまだまだ足りていないことに気付かされました。わかったつもりになるのではなく、わからないことはクライアントに教えてもらう、という姿勢をもって仕事をしていきたい」「アセスメントについて学び、ソーシャルワーカーとしてアセスメントの大切さを再認識しました。医療専門職の集まりである病院に社会福祉専門職のソー

シャルワーカーがいる意義を示すためにも根拠を持ったアセスメントが必要であり、そのためにバイオサイコソーシャルモデルで総合的に考え多角的視点でクライアントを理解できるよう知識を深める必要があると感じました。退院支援に於いて、経験を重ねることでどこに退院（転院）できるか当てはめ型の支援になってしまい調整が主になっていることがあるためケースを俯瞰してみることを忘れないようにしなければならぬと思いました。エコマップとタイムラインをクライアントと一緒に仕上げることでクライアントの人生を教えてもらうことができると学び、面接の仕方を見直すきっかけになりました」との意見が出された。幅広い経験年数の受講生が集まったが、それぞれの立場で実践に活かせることを学ぶ機会となったと考える。

3. プログラム検討委員会

協会の研修事業の体系、内容などを検討する諮問機関である。2022年度はオンライン研修全体の運営状況や各講座の内容検討などを行った。

【委員】 井上 歩	(河北総合病院)
駒ヶ嶺 さゆみ	(豊島中央病院)
佐藤 真弓	(国分寺地域包括支援センターひかり)
中辻 康博	(豊島区医師会)
原田 剛	(新山手病院)
平川 直子	(東京白十字病院)
平田 和広	(上板橋病院)
森田 祐美子	(青梅市立総合病院)

【定款第3号事業】

3) 医療ソーシャルワークの必要な調査研究に関する事業【自主事業】

1. 医療福祉問題研究委員会〔自主事業〕

当委員会は、「社会福祉・保健・医療分野における調査・研究及びソーシャルアクションを行なうこと」を目的に活動を行う。理事会が承認する専門部会である。

(1) ホスピス・緩和ケアにかかわる医療ソーシャルワーカーの集い

2020年度に作成した「がん患者さんを理解するための視点マップ」を用いて、メンバー内で事例検討を行った。2023年度開催予定の勉強会準備のため、会議を定期開催した。

(2) 成育医療等を考える小委員会

成育医療等について会員へ理解してもらうための勉強会を開催した。

(3) 身元保証に関する小委員会

昨年実施した事例検討・勉強会の中から、各領域におけるソーシャルワーカーの課題を整理し、医療・介護関係者・等に対して大規模アンケートを実施。調査結果を報告書にまとめる作業と並行し、ソーシャルワーカーが行う関係機関に対する情報共有の内容について、書式作成作業を委員にて分担した。

2023年度開催の日本医療ソーシャルワーカー協会全国大会へ向けて、シンポジウム、つどいに関する打合せを重ねた。

(4) 医療ソーシャルワーカーの現状と未来を考える小委員会

委員会開催をし、会員に対して調査をどの様実施していくなど協議した。

【定款第4号事業】

4) 刊行物の発行に関する事業【自主事業】

1. 会員向けニュースレター「東京MSW」の発行（各号800部）

会員向けニュースレター「東京MSW」361号（5月）、362号（8月）、363号（11月）、364号（2月）を発行し、会員相互の情報共有、新しい情報の提供を行うとともに、協会活動を発信する媒体として機能するような内容の充実に努めた。

2. 機関誌『医療ソーシャルワーク』70号、71号の発行（1000部）

協会機関誌である『医療ソーシャルワーク』70号を2022年3月に刊行予定していたが延期したため、2022年6月に刊行。71号を2023年3月に刊行した。

【定款第5号事業】

5) その他本会の目的を達成するために必要な事業【自主事業】

1. 日本医療ソーシャルワーカー協会全国大会開催について

(1) 2023年度日本医療ソーシャルワーカー協会東京大会を共同開催することにした。

(2) 2022年度は実行委員会を立ち上げ運営準備を行った。